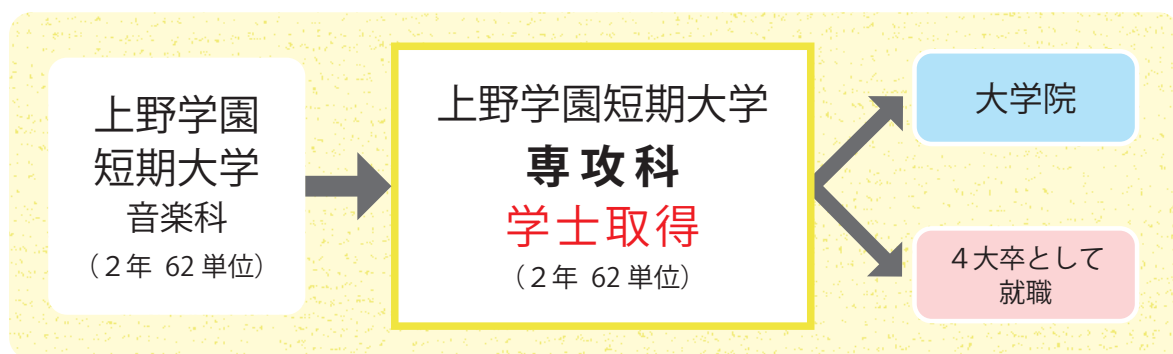


音楽専攻

ピアノ専門／器楽専門／声楽専門

短大のその先へーさらに2年学び、学士取得を目指すー

短期大学卒業後、さらに2年間の学びにより62単位を履修し、計124単位を以て学位授与機構の認定により学士の取得を目指します。就職では4大卒として、また進学では大学院進学が可能となります。



専攻科 3つのポリシー

ディプロマ・ポリシー「卒業認定・学位授与の方針」

専攻科では、以下の要件を満たし、所定の62単位を取得した学生に修了証書を授与する。

- 音楽の背景にある文化、社会、歴史を理解していること。
- 理論と技能を通して音楽表現を探究できていること。
- 教育現場やビジネスで展開できる主体的な課題解決スキルを備えていること。

カリキュラム・ポリシー「教育課程編成・実施の方針」

専攻科では、ディプロマ・ポリシーにおける3つの資質、能力を身に付けるために、以下の方針で教育課程を編成する。

- 一般教育科目に芸術の歴史、哲学、教育に関する科目を配置し、教養ある人材を育成する。
- 専門教育科目に専門実技と各種アンサンブル科目を備え、実技に打ち込める環境を整えている。
- 課題解決を通して社会参画するための実践的なアウトリーチ科目を配置している。

アドミッション・ポリシー「求める学生像と入学者受入れの方針」

専攻科では、音楽を中心とした教養を基盤にして、人間力を高め、社会参画する意思のある人を求めている。求める学生像は以下の通りである。

- 音楽や音楽文化に豊かに関わりたい人。
- 音楽表現を探究し、実技を極めたい人。
- 音楽を通して他者とつながり、協働して課題解決に当たろうという意思のある人。

専攻科の目的

これまでの2年間の学修を基盤とし、音楽を中心とした学修から深い教養の追求、並びに高度な演奏表現の探究を行う。



授業ピックアップ

声楽特殊研究

前半は日本歌曲の継承と発展を学びます。品詞による歌い分けにより自然な歌唱を目指します。
後半にドイツ歌曲の始まりと代表的な作品をグルーブレッスンの形態で演習します。歌唱のためのドイツ語の発音を中心に学びます。

音楽理論特殊講義

和声法Ⅰ・Ⅱや楽曲分析Ⅰ・Ⅱでの学びをふまえ、ロマン派や近現代の作曲家の作品を分析します。
学位授与申請で使用する曲を楽曲分析し、授業内発表をします。

室内楽

異なる楽器同士の学生と話し合い、室内楽曲を選曲し、授業を進めます。各楽器の特性や演奏法の違いを理解し、旋律と副旋律、伴奏の違いを研究します。時代背景を考慮し、その時代に即した表現方法を研究します。

ピアノ指導法研究

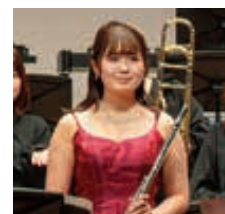
前期は幼児の導入期から中期にかけての指導法を中心に、学習者に適した指導法を学び、後期は日本と世界の音楽教育に触れ、マスタークラスの動画を視聴してディスカッションをするなど様々な視点から指導法を追求します。幅広い教材にふれ、その活用法を学びます。

時間割例（1年次・器楽・トランペット）

前期	月	火	水	木	金	集中講義等
1	英語コミュニケーションⅠ-1					
2	民族音楽学特殊講義	音楽教育方法論-1	専門実技研究Ⅰ-1 (トランペット)		副科ピアノ	
3	副科声楽	日本音楽史概説-1				
4		哲学と倫理		器楽アンサンブル研究Ⅰ-1		
5		室内楽Ⅰ-1		ウィンドアンサンブル研究Ⅰ-1	合唱と指導Ⅰ-1	
後期	月	火	水	木	金	集中講義等
1	英語コミュニケーションⅠ-2					
2		音楽教育方法論-2	専門実技研究Ⅰ-2 (トランペット)	美術史基礎	副科ピアノ	
3	副科声楽	日本音楽史概説-2	器楽特殊研究	音楽心理学特殊講義		
4				器楽アンサンブル研究Ⅰ-2		
5		室内楽Ⅰ-2		ウィンドアンサンブル研究Ⅰ-2	合唱と指導Ⅰ-2	

Voice 修了生

温かく手厚いサポート体制の整った上野学園で
もっと音楽の知識を深め、スキルアップを目指したい



2025年3月 専攻科
器楽専門（フルート）修了
山崎みゆさん

上野学園短期大学の授業では、苦手な分野も先生方からの手厚いサポートを受けることができ、とても充実した短大時代を過ごすことができました。フルートオーケストラの授業では普段あまり使うことができない特殊管を用いて、メロディー以外のパートを演奏することで、音のバランスについて考えることができ、貴重な学びとなりました。上野学園短期大学の2年間を通して、より音楽を深く学びたいと思うようになり、このような環境でならさらに自分の力を伸ばせると思い、専攻科へ進学することを決めました。

専攻科2年時にウィンドアンサンブル定期演奏会で、ソリストとして演奏することになりました。練習を重ねていく上でアンサンブル力の必要性をとっても感じました。デュオ、トリオ、カルテットなどとは違う大人数＋独奏の組み合わせは、自分自身がどのように演奏していきたいかを、より具体的なものとして作っていかなければならないのだと考えさせられました。そして、なにより福田先生編曲による様々な楽器の響きの伴奏で演奏することになり、今までとはまた違った音楽の流れや雰囲気が出てきたので、練習の度にアイデアを深めていくことができました。特に、各楽器の音色やフレーズの役割を意識することで、自分の演奏がアンサンブルの中でどのように響くのかを考える良い機会になりました。また、ソリストとして自由に表現しながらも、アンサンブル全体のバランスを取る難しさも改めて感じました。ソリストの経験を通して、ソロとしての表現力だけでなく、周囲の音を聴き、共に音楽を作り上げていく力がより大切であることを実感しました。この学びを今後の演奏にも活かしていきたいと思います。